

総合力で3連覇!

V 鹿児島工 3

スポーツ

号外



第61回鹿児島県高校バスケツトボール大会は6月7日～10日の4日間、鹿児島市の県体育館などであり、男子は鹿児島工が3年連続3回目の、女子は鹿児島純心が3年連続8回目のインターハイ出場を、どちらも決勝リーグ3戦全勝で決めた。男女とも1位が全国大会(7月29日～8月3日 埼玉)、2位までが九州大会(6月21、22日 大分)に出場する。(政純一郎)

「脇役」が奮起!

鹿児島工が新人戦、南九州4県予選で敗れた雪辱を晴らし3連覇。西大樹主将は新人戦で負けたから1人1人が死にも狂いで頑張ってきた最高のチームができましたと目を潤ませて勝利の喜びをかみ締めた。

十ノの有馬啓太、190台の中深迫諒太、寺師孝治を擁する今チームはこれまで結果を残せずにいた。工業業は有馬を抑えれば何とかなると相手に思われていた。2、3番手の選手がどう思い切りプレーできるか(宮迫宗文監督)。V3の力キはこれまで脇役だった1人1人の力を引き上げて、いかにして総合力で勝負するかに掛かっていた。



中深迫、寺師はインサイドで頑張り、久保田、坂元が外から射抜く。西小城勇人はリバウンドを頑張り、園林順平は粘りのディフェンス途中出場の1年生も思い切りのいいプレーでチームにカッツを入れ、こそこという場面では十ノ有馬が締める。1人1人が自分たちの役割を果たしてチームがかみ合い最後まで主導権を渡さなかった。

「トブルテンウイク明けから、久保田、山下は他のメンバーよりも30分早出して朝練のシフト練習でシフトの精度を上げた。1人1人の努力が実ってつかんだV3に、何度も宙を舞った宮迫監督は子供たちの力、基本の大切さを教わりました」と感無量の様子だった。

